



欽定四庫全書

四



おちろがも女活四

かゝてやうく申納えたもくまやみおくハおちろ後りも何し  
くおちろなまもよて修法阿ましせを勢おくハ中納えにり  
ハこま思ふも侍らぬハ命をくも侍らぬハつらけし  
く何ハおちろせをせおくと申た中よもを法やうり成  
おく志おちろぬづよなあり今志をし生してらハやと思ふハ  
おちろしる沈みてきおちろの韻草にまろくおち  
られてなりおちろつまなん恥よ思ひくも我君のかちり  
思ひくもおちろせり命づよありおちろなりねと思ひぬもに  
又くおちろバ我ち大納言に成まじよ報よてこそ





竟おらなふとも我子ども七人あねどかく現世後生げんせごせい  
う社うぢいよめえまじりやまじりかゝりけるは佛を付し  
にても速おちなりけんいふかた不審なるめえんとてそ  
まじり子三人知耳とわづれどさう我のこゝろさ  
さういさつあれあやさううき能のこゝろさう見え  
つふのあはきささかりつふまはる半もなりれどは  
かつり足をかぐさうれく足さの入りてい能のこゝろさ  
して赤死あかじまじかちりにいさむこ子にまれをんちこに  
まれまははりあやつれといさむかゝういいますかき  
ハおの方あの方憎にくいさく死ねといさむかきまじりに来ていと法ほつ

はくはうそ犯て男若女夫一とあるよおハ寸げどうそ  
拜まがこなりつふ人ひといと怨うらいとやを死しハ大納おほのちめれハ朝あさ家  
も怨うらくもおけしあさすたあがまぢみこそうれく  
くかじけなく思おもひへら世よほつふまつらで死ぬと  
も大かおほさ護まもりも本侍りてなご念じ侍りてや死しふ其その  
より正ただしくすひて九の大いどのよ余り死しめて又内よ余  
わ給たまふ人よ縁ゆかりくすもおなじやうにして様ようさう  
るもなけきバあふ大納おほのちまじりよわけてみまじり  
まじり死しふ今ハ死しまじりも思おもひまじりバ死しなん命いのちも  
惜あはれら付つといひ死しくすりいとよいへ死しめとや死しひて

大おとりのおれごころおしり終へりおとごがけしけなごくれ  
しと思ひしやへりおむにめ五人集ひてはくうふまつり  
なげよ終ふおとごころおれ子ごもはくうふまつり終ふハ物  
とも思さご大おとれおの方お傷おいするをうれしとい  
みじうめでたよものよおれしと食もまわりしやふふ  
つけをれん糸りたやまひくもあれも一げきく成もて  
終りて生跡とよなごころしとん子ごもものんるにけらか  
ら思ひをぞおとごちの中にもうやういしとあをれハ論  
なう怨とあごもつて来なんとして越あおをたまふら  
候もをてはくうの庄お券佩刀なと取もてえら世終ふ

うがしとろしとよおとごおのこのうにまひ終ふてうと  
子ごの思とさしにてもうらふしと思ふへうらとがおなご  
やうに力入り、初よ孝じしるだも人きうらしとくもに  
なんよあしと物とられる況乎許多のまごらるかつり見  
る子母とよも思しとくもかしうのこもあをまんごち  
ハあしれりとおほしとりお家もありてうらほめれど度う  
宜しとよ思しとて大おとれおの方にたてまつり終くも  
おのこやてはけぬのこもあをまんごちとものこもひぬん  
けれど又伊のうらとくもやなごらん年らるおううより  
そひをわてら七十になもるうと兄をかたおみまひら









法服のいと濃きに粧きおまに女し暮み孫へるが何  
もれりええしとてハ男系おなげしとて

洞川我まきしとてはるして君が袂がうちとえおける  
とぬしまハ女

神祇寸洞の川お涼くれおぢれ衣とりあやふありける  
なとやえ孫ひつは返りありき孫ふちとよ三十日の時を  
そてぬれハ今いこうとにわたり孫おれおとと意やゆとのこ  
まハハ葉多よもあらはは四ツカおはせて、あつらんお  
孫へおあつりなんおハおさしけふさかれくておなれ  
ぬのに成ぬおのあつてなんしんらふらふみらうけしての

りなればとて大おあつと侍かめこう控しとてい々あふお  
我もくとほとていひてあつてい々おれおとまうす  
まらうとてお法になんのさけさすけて、大將殿のまハ  
いざたまへお登にもそあむるとのさけハたかから今  
そつけてもかゝ流るりなぬとまひる、おまれざりけりと  
や孫もいおぼつてむるおまきなんしなまよ人の時ハ  
まにまよとていおぼさぬこうおまらう思ハあとの  
たまへはらら流るり、女まへえ達よと、あつてハ、い孫  
をめあつていおま、おあおがこうのこ孫ふとて、彼おと  
めをまらとておまらあつてい物とも、はらのぬ









ア、きつづけ依のまあひて、よもつらきをたづね、あやう  
けきよきよよ人のかくこころに探<sup>しら</sup>ふをか、うらあはまら  
おのこころにおおきしほい、やま<sup>い</sup>り終りし、いさか  
のいよへはるすやちざりたう、かくら、しよはま、およ  
ひも、あやうのよき、ついで、ちや、はら、か、し、と、ま、う、い、み、う、か、こ  
のいよ、あ、り、か、と、め、い、も、く、ま、の、あ、い、う、で、あ、る、な、ん、  
よ、み、あ、き、も、の、う、み、い、う、人、に、罪、も、ま、ん、と、お、終、あ、い、  
あ、あ、か、こ、よ、し、く、や、ま、さ、う、せ、と、と、二、人、な、ご、う、か、い、つ、  
き、こ、た、て、あ、は、き、ま、い、ご、う、う、や、は、は、ら、の、り、ま、や、せ、と、振<sup>ま</sup>  
た、こ、う、く、ま、や、入、め、あ、う、に、て、り、ぬ、九、條、つ、依、な、ご、う、の、く、あ

まよ、親をもちまひりけん、あ、お、あ、よ、も、ち、さ、う、な、り、と、り、ひ、て、  
ね、あ、へ、わ、こ、と、ハ、法、も、も、に、え、命、を、し、た、お、ど、の、人、や、ま、く、つ、ま、う、  
か、こ、ま、り、て、終、り、ぬ、う、に、も、そ、い、あ、ひ、り、を、ま、ん、あ、お、も  
し、た、も、の、う、一、思、ひ、や、ま、さ、う、は、ぶ、ぶ、だ、ま、い、き、し、も、は、の、あ、  
か、こ、の、よ、人、く、む、う、し、の、は、か、お、う、が、ま、ん、ま、い、う、で、か、と、つ、  
み、は、る、を、は、心、げ、の、か、ひ、ま、い、や、う、に、や、い、と、し、ら、い、に、な、ん  
た、ら、り、と、め、つ、の、あ、お、は、い、の、い、と、心、ま、ん、あ、こ、う、な、る  
め、り、し、は、を、あ、い、に、物、ま、を、せ、た、ら、う、く、物、く、や、な、ま、い、の、あ、  
い、も、と、い、い、し、く、は、る、を、券、な、お、う、せ、終、ま、い、と、く、券  
あ、い、な、る、初、終、は、ら、ん、を、越、あ、ま、の、取、て、ま、ら、れ、ば、あ、れ



ついでに中の考は、  
御宝まんとておぼしき事なりとて申され、  
いづれなりし事なり、  
國の事なりし事なり、  
唐になつ、  
清遠よとあつまりておのこころにあらむ、  
おんとて、  
海ひろし、  
ハは様、  
きてき、

のこころいひ、  
せうほう、  
るも、  
ちう、  
も、  
き、  
ハ、  
て、  
と、  
こ









にやあはかしのよきかたのふりていふこと  
行く方<sup>いふ</sup>のよきかたのふりていふこと  
うにばもよきかたのふりていふこと  
わりのよきかたのふりていふこと  
よりのよきかたのふりていふこと  
にていふことよきかたのふりていふこと  
おちかお掛<sup>おちか</sup>をよきかたのふりていふこと  
えりのよきかたのふりていふこと  
めりのよきかたのふりていふこと  
えりのよきかたのふりていふこと

あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと  
あつちのよきかたのふりていふこと























いさぎあきみなくついでためんをむぢいぬらひ  
くなんおもほをびくばいりてふありらんと世のやうに  
しものいふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
せんばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
とむぢいぬらひくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
をたばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
くばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
はくばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
のいふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
けいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと

にさしきりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
のいふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
はくばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
をたばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
くばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
はくばいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
のいふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと  
けいりてふくばさちかゝりあさりびくばいりてふありらんと

おきなごわよきしう侍らんそふおれはしんらんのか  
きしひおふほくふおちる衣まねのなまきうりしんく  
たかしくおしんはあらんよのしやふ丸のたいあわり  
おふとやして衣そなまきあせつゆのよもあらしと思し  
あていとおとげふあおよしの夜そ一ふみひめあはれ料か  
さし一領ひんぎちひさた人のあそをきりしもの後しはあら  
はるりあもさうとてきりおふのいんらんきんめさ  
かこひりなし人らみしゆりもまひおははら  
えまぐりおあそ七人あれどかく細こうらんらびかく  
りえのやいあふ物のほへふおのうなりれまきり

しんおたもひしんおとらりもしんおしんおしんおしん  
きしんりもふゆふらんらるがも神かみのらんはらんら  
海うみががきりなまきしんおしんおしんおしんおしん  
しんおしんおしんおしんおしんおしんおしんおしん  
さやかきおむにめいほらんらるらんらるらんらるらん  
はうまよしてかれは先かよなてらんらるらんらるらん  
はこまじつてして海うみ干てらんらるらんらるらんらるらん  
侍さむらいふま後ごひふとさらんらんらんらんらんらんらんらん  
丸のちほいあはれらるらんらんらんらんらんらんらんらん  
なりまららがあしん物ものらんらんらんらんらんらんらんらん



たふはるもといへそかぐいみじくのしるすひねりしる  
くしをなまてむうしおろがうし田日せしをけんすらうがう  
をなん中へ親うちにもわけてあれ内合意をまん  
しをひくも人へのおそある帳屏風よりははめてた  
おぼやうにわらうきしほはらほしつづらひみじ  
もいへんまししなんうれしよとくぞあめうらわ  
あの子の泣きをまんるふ余きりひくはあんだらうま  
物ししゆなだのうきもかかきしうきしゆかおの  
きり苦らうしゆなうきししよきししよきしゆきし  
めいんせうらわらうきししゆきししゆきししゆきし

りんが母おのうきししゆきししゆきししゆきし  
ははりんが母おのうきししゆきししゆきししゆきし  
けりしゆきししゆきししゆきししゆきししゆきし  
中わりぬいと花やのうきししゆきししゆきししゆきし  
みじう思ふ掛をまよしてさきうらうらうれ人をもん  
ちりけふたのねいふおのうきししゆきししゆきし  
てひくりは月廿廿ハハハハハハハハハハハハハハハ  
はん郷合まうけひくししゆきししゆきししゆきし  
きりなうししゆきししゆきししゆきししゆきし  
らなわししゆきししゆきししゆきししゆきし

佛神のきしゆふとむかひの守のきりて人々はま  
づい<sup>ま</sup>はまはま母にとけてい<sup>ま</sup>な<sup>ま</sup>あつたけ  
丸のたいまよりあつたし<sup>ま</sup>今い<sup>ま</sup>ひり<sup>ま</sup>なりなん<sup>ま</sup>  
れぞま<sup>ま</sup>おも<sup>ま</sup>かんか<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>のま<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>  
ら<sup>ま</sup>らん<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>田<sup>ま</sup>けん<sup>ま</sup>又<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>わ<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>せ<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>ふ<sup>ま</sup>  
ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>  
ほ<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>又<sup>ま</sup>ね<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>  
ま<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>下<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>なん<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>

おすてい<sup>ま</sup>過<sup>ま</sup>らん<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>過<sup>ま</sup>らん<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>過<sup>ま</sup>らん<sup>ま</sup>  
て<sup>ま</sup>ひ<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>め<sup>ま</sup>  
何<sup>ま</sup>人<sup>ま</sup>が<sup>ま</sup>ん<sup>ま</sup>率<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
過<sup>ま</sup>らん<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>過<sup>ま</sup>らん<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>過<sup>ま</sup>らん<sup>ま</sup>  
あ<sup>ま</sup>社<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>み<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>  
は<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>わ<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>  
わ<sup>ま</sup>つ<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>う<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>  
れ<sup>ま</sup>も<sup>ま</sup>清<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>  
ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>  
ま<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>









しりあせちしんせ

今いそと清きまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん

やあせしんせしんせしんせしんせしんせしんせ

あせしりなよしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
はしなぬれきいづらん<sup>あせ</sup>のりなよしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>  
がよのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
びりしんせのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
まのりにあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
なりぬれしんせのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
社やもしんせのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん

あせしりなよしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
はしなぬれきいづらん<sup>あせ</sup>のりなよしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>  
がよのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
びりしんせのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
まのりにあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
なりぬれしんせのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん  
社やもしんせのりあせしんせのりまのりぬれ領中<sup>ひれ</sup>の袖とんせつりしん

しつとて意はたれどいづらふはけきばぢるはきになか  
らちハ、扶養を結うもてしつとていづらふはけきになか  
ハ、赤丸はたの意はたれどいづらふはけきになか  
ろぶにぬそとばやもんのいづらふはけきになか  
に、めでいふももなんはつらういづらふはけきになか  
うにとてつとてたのちいづらふはけきになか  
ひたり、たのおいづらふはけきになか  
三よしては、赤丸はたの意はたれどいづらふはけきになか  
さむきりしつとていづらふはけきになか  
赤丸はたの意はたれどいづらふはけきになか

かゝりつとていづらふはけきになか  
あはまたもいづらふはけきになか  
時めいづらふはけきになか  
いづらふはけきになか  
扶養を結うもてしつとていづらふはけきになか  
ち、たの意はたれどいづらふはけきになか  
みていづらふはけきになか  
ろぶにぬそとばやもんのいづらふはけきになか  
に、めでいふももなんはつらういづらふはけきになか  
うにとてつとてたのちいづらふはけきになか  
ひたり、たのおいづらふはけきになか  
三よしては、赤丸はたの意はたれどいづらふはけきになか  
さむきりしつとていづらふはけきになか  
赤丸はたの意はたれどいづらふはけきになか



ついでと後なんはしむべしと平に侍ればおもわ侍らん  
と田原のさしは職してはおねやまのせんごもまよとさり  
どもにまわらでいひもびんなきもづし、辯しなる代り  
は尤方位をなせし人、才なきうハ侍らざめりばはま  
箱よりおもひしる見いひもまづ志侍りなんと、はれみや  
すせめて奏はきし人も、バみつと何うハ、生ておし終らん  
ころ、終しころめとして尤のおもを太政大臣となし  
り終ふ世人も、ごごすなり終も、位を極めし人も  
る、いとも、おとらふあり、はむはめれ女師、后は居しや  
め、宮に輔す、が、おを中將となし、とまんせき勢つとま

けふ、吾等の仇も、はるまじく、終ふ、を、神の、命、に、侍、れ、位  
尤を、侍、のか、お、す、なり、終、り、ぬ、は、ね、ぢ、お、と、ま、あ、吾、等、の、侍  
け、を、お、ら、う、と、な、し、終、り、ぬ、は、ね、ぢ、お、と、ま、あ、吾、等、の、侍  
の、社、が、子、供、の、ま、り、を、る、は、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と  
申、終、く、バ、は、は、子、の、ハ、箱、の、ま、り、は、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と  
そ、考、り、侍、ら、ん、は、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と  
は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と  
や、う、や、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と  
し、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と  
は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と、は、あ、い、ひ、の、ま、侍、ら、ん、と



けきばらうらひくわんごななめのうもん、東の姿をば田  
うまひくふ、九大将右大将うてそ、はげきうてなりあがわ  
れ、おのほ、母きこの方、はまき、つとも、まとも、殊、とも、ん、こ、ろ  
うり、うち、は、あ、れ、徳、よ、て、大、納、ま、よ、な、り、う、ま、つ、わ、お、も  
し、ら、れ、病、お、も、と、て、法、師、ま、な、り、に、な、れ、ば、ま、る、よ、も、つ  
え、ぬ、な、も、つ、し、典、業、の、助、ハ、滋、ら、れ、ま、も、病、ひ、よ、て、死、な、わ、  
あ、れ、う、て、お、さ、げ、る、も、を、ん、ど、な、り、ぬ、も、う、ら、ち、う、い、ふ、ま  
か、て、ら、ま、り、説、き、せ、けん、ま、げ、し、生、て、お、つ、う、ん、も、の、を、と、ら、  
ま、と、こ、養、れ、し、ま、ひ、く、ふ、廿、四、の、家、目、ス、リ、お、お、や、ま、り  
て、お、く、ら、み、じ、う、え、れ、ば、む、つ、の、あ、は、れ、ハ、今、ハ、典、侍、

に、ま、る、べ、し、<sup>けし</sup>な、り、の、そ、け、に、二、百、ま、ど、ご、お、か、ら、お

お、ま、り、な、り、お、は、れ、お

寛政十一年己未仲春日

書目林

京都  
江戸  
同  
同  
大坂

額田正三郎  
須原茂兵衛  
西村源七  
同  
葛城長兵衛  
宗七

